

社会福祉法人 二葉保育園
児童養護施設 二葉学園

二葉だより

発信元

東京都調布市上石原2-17-7

児童養護施設 二葉学園

TEL 042-482-2578
FAX 042-480-5200



これからの子ども家庭福祉を考える

この十一月末、ある研修会（学会）で画期的ともいえる考え方に会いました。子どもの虐待の研修会で、子どもの虐待に関する専門家や当事者が集う会でしたが、そこでここ二十年から三十年、児童福祉法の改正、児童虐待防止法の制定やその後の虐待の早期発見や防止の取組みがなされてきたが、功を奏してきたのかどうか、もはや「虐待」という視点からだけでは「子どもの虐待」は減らせないか、見つけれられないのではないか、という提起でした。ある種の転換を図らなければ、根本的な解決の道筋には入れない、という主張です。子どもの権利を守るということは如何なることか、揺さぶられる思いがしました。

「虐待」という言葉を使わずに、その大人と子ども（親子）の関係性にかかわることはできないかを考えることが、これからの私たちのするべき、なすべきことではないかと考え始めました。子ども家庭福祉のテーマは「子ども第一の社会を創ること」に変わりませんが、捉え方の転換が必要だと考えます。単なる虐待をした側（親）、された側（子ども）という対象化ではなく、いずれもがこの社会で共生できることを理念に掲げる必要があるように思います。三十数年前に私が二葉学園に入職した際、学園で生活している子どもたちの中に、一番身近な大人（親）からの虐待が理由で入所することになった子どもたちの事実に触れました。そして私はその時「なんてひどい親なのだろう」と率直に思いました。しかし、その後私もその「ひどい親」と直接会い、話をする事になりました。会って話をしてみると、その「ひどい親」も社会の中で困りごとを抱え、家庭という「密室」の中で「孤独」を感じ、より弱いもの（子ども）に暴力等（人権侵害）で関係を取る、もしくは関係を取らない（ネグレクト）という構図なのだと思います。行こうと人格を切り分けたいと望ましいかわりはできないと思いました。

一方で若年層の自死の問題があります。令和三年と四年との比較にはなりますが、若年層（十代）の自死（自殺）が増えています。全体の数との割合では変わっていません（三・六％）が実数では四十七人（令和四年七百九十六人）増えています。その三分の一が「不詳」、理由がはっきりしないというのです。周囲がその行為（自死）の理由も知ることもなく、社会から自ら退場をしてしまふ。非常に切ない気持ちになります。自死に向き合う時、「なぜ」といふことですが、私はその人の直前の気持ちのひとつとして、「絶望」があると思っています。

「孤独」を感じ、それが昂じると「絶望」に至る。それがもしかすると引き金となつて、死に至ることになつていくのではないかと感じています。「死に至る病とは絶望のことである」、哲学者キルケゴールはそう表現しました。私たちは、かわる子どもたちやその家族、地域の中でこの孤独やそこから生まれる絶望を残らず受けとめ、それらをなくしていきたいと強く思います。そして、そのために行動します。

施設長 小倉要



夏の取り組み

夏行事実行委員会

コロナの流行も一旦落ち着き、気持ち新たに職員・児童共に楽しんでくることが出来ました。

今年度も職員からアイディアを募り、六つのプログラムを実施しました。数年間温め続けてきた企画、児童と共に内容を決めていったもの等様々あります。どれも職員の思いやアイディアが詰まったものとなっていて、是非それぞれのプログラムの報告を読んでいただければと思います。

今年の夏行事が子どもにとって素敵な思い出となり、心の栄養になることを願っていますし、職員と子どもが共に過ごした思い出として大人になった時お互いに笑えるような夏行事となっていると思います。

保育士 篠田 未来



くもとりプロ

二葉学園の夏行事と言えば自転車プロ！今年は交通機関を使わず、自分の力で東京都の一番高い所を目指すという目的で奥多摩にある雲取山の山頂にむけて、二葉学園から自転車で出発しました。四泊五日、自転車での往復六十キロ、それに加えて山登りもするというプログラムでしたが小学生から高校生の子どもたちが集まり、チャレンジをしました。

自転車では、誰一人として途中でリタイアしたり、伴走車に乗ったりすることなく、全員で六十キロを走り切りました。体は確実に疲れているはずなのに、子どもたちは後半につれてどんどん元気なり、体力と気力に驚かせられました。

雲取山の登山では、急な山道と重い荷物で足も腰も肩も痛かったと思います。山小屋まで行けず下山せざるを得なかったり、下山は激しい雷雨に襲われてしまったり、過酷な登山になってしまいました。それでもいつでも相手を思いやり、協力し合っている子どもたちの姿は素晴らしかったです。

私自身、初めての自転車プログラムで不安でしたが子どもたちにも笑顔と元気をたくさんもらい、楽しむことができました。この夏行事で得た達成感と悔しさが子どもたちの今後にとって糧になればいいなと思います。

児童指導員 櫻井 和果

私が自転車プログラムを行って楽しかったことは、自転車で奥多摩まで行ったことです。意外と余裕で自分でも驚きました。過酷で辛かったこともあります。それは山登りで頂上まで行けなくて悔しかったけど天候が悪くて、山を下るときに雨も雷もなあって怖かったけどみんなで二葉学園に帰ってこられてよかったです。

小学六年生 女兒



トレジャーハンタープロ

岐阜県中津川市に三泊四日、鉱石を探しに行きました。一か所の小川での探索はすぐには見つからず、皆で石や砂をふるいにかけながら「ないなあ、あっちの方を見てみたらあるかなあ?」と探していました。二か所目は場所を変えて山の方へ。地面が太陽に照らされキラッしたところを見ると水晶がちらほら。二日間で徐々に子どもたちも鉱石の見分けがつくようになって「これ水晶じゃないか?」「もっと大きいのではないかな」と言いながら山肌をじっくり見ている子、探す場所を一か所に絞って深くまで掘り進める子がいました。岐阜とはいえ、猛暑の日々ではあったのでかなり暑い中での探索でしたが、大人も子どもも熱中して探し続け、最終目標であったトパーズはなんと二つも見つかり、他にも水晶をたくさん見つけることが出来ました。最後に自分の見つけた鉱石の中から一番の石を選んで標本を作りました。ほかに三泊テント生活や、1kgもあるお肉の塊を焼い

たBBQ、キャンプ場の近くの川での川遊びは激流の中にためらいもなく流れに行く子がいったり、ナイトハイクでは外灯のない真つ暗な橋を渡ったり、日常の生活ではなかなかにできないような経験が出来た四日間でした。

児童指導員 日野 亮子

トレハンでは一日目から大きな肉を食べたりしました。また、最初の川ではなかなか石が採れなかったけど次の日はげ山では水晶をとることができました。さらに違う川ではトパーズを採ることもできました。また毎日川遊びをしました。川で冷やしていたスイカがなくなってしまうたりハプニングもありましたがとても楽しかったです。トパーズは今でも大切にとつてあります。

小学四年生女兒



映え。プロ

色々な「映え」を探しに行く企画です。今回の舞台は、東京から約百五十キロ離れた伊豆七島のひとつ、「新島」です。夜の二十三時に出航し、みんなで甲板に出るとそこには東京の眩しい夜景が見えました。朝、船の中で目が覚めると丸い窓から見る、海の濃い青色、波の白色、島の緑が広がっており、みんなその景色に釘付け。

島では、子どもと大人で考えてきたプランに取り組みしました。特に、オリジナルTシャツ作り。白い無地のTシャツに、それぞれが好きな色、絵を描いて、世界に一つだけの作品を作りました。色とりどりのTシャツが並んだ達成感と完成したTシャツを着た時のわくわくした気持ち、は忘れない思い出になったと思います。

また、二日目のサイクリングでは新島を一周しました。有名な観光スポット羽伏浦海岸に着いた時、求めていた「映え」が、そこには溢れており、写真や動画をこれでもかと、沢山撮りました。後日、自分達で撮った写真を使い、

思い出話に花を咲かせながら、写真立てやキーホルダー作りをしました。

実はこの二日間で一番長く過ごした場所は海の上でした。綺麗な海に、浮き輪でぶかぶか浮く時間が心地良くて、楽しくて、「早く海入りたいから急いで食べて!」と昼食のお弁当を急かされた記憶は、私にとって嬉しい記憶です。

児童指導員 志村 優月

新島にいつてきました。ここでは、オリジナルTシャツづくりをしたり、風船を飾って写真を撮ったりと「映え」を探索しました。また、海で泳いだり、夜はバーベキュー、花火もして夏らしい活動もたくさんしました。その中でも一番楽しかったことは、新島の自然の中でサイクリングをした事です。暑くて少し大変だったけれど、一緒に走ったみんなとの絆を深める事が出来ました。夏を満喫できて、とてもいい思い出を作る事が出来ました。HAPPY!ハッピー!!!

中学一年生女兒



釣りプロ

『この海の向こうに、すんげえ魚がいるって知ってるか？それを手に入れた奴が、魚取王になれるんだ。ワクワクしねえか？聞いた事もねえ、冒険が、待ってるっていうんだぜ!?』

二葉学園の一行は魚取王になれるという話を聞き、電車と船を乗り継いで伊豆大島に向かいました。伊豆大島はきれいな海と青い空が広がる自然豊かな島です。着くとすぐに海で遊びました。釣りは明日から。

次の日、早朝からパンを片手に堤防に向かい魚取王になるため魚釣りを始めます。しかし、日が昇り昼になっても坊主です。しばらくするとお隣さんが使っていたエリアに小さな高級魚『タカベ』の一群が。急いで釣り、みんなで五十匹以上釣りあげました。夜は美味しいタカベ料理を食べることができ、大満足です。また魚釣り以外にも海や島で大人気のアイスや温泉、花火にスイカわり、魚取王になるために様々な修行を行いました。

そして、あつという間に四日間が過ぎました。魚取王に

なるにはまだまだ修行が必要なのですが、新しいものとの出会い、育まれた友情、日々の日常への感謝、令和五年の夏、子どもたちにとって忘れられることのない四日間になったと思います。

児童指導員 寺尾 春夏

僕は今年も三泊四日で伊豆大島へ釣りをしに行きました。島までは、電車と船に乗って行きました。行きの船の中で、マグロを釣ったら刺身にして食べようとみんなで話をして楽しみにしていました。二日目に釣り竿の準備をして早速釣りを始めました。みんなで釣りをしていると小さな高級魚のタカベの一群がきました。沢山釣れて、夜ご飯でいっぱい食べました。おいしかったです。去年よりもたくさん魚が釣れてとても楽しかったです。

小学四年生男児



Y.O.O!夏アドプロ

今年は夏の行事がはじめての子を含め、四人の幼児さんと一緒に二泊三日で長瀬に行って来ました。制限が緩和されてこれまで我慢していた分、「自然のなかでたくさん冒険をしよう!」「夏を感じよう!」と職員も意気込んで、川遊び、すいかわり、BBQ、星空観察、花火、魚つかみ、鍾乳洞たんけん、そして最後に長瀬名物かきごおり実食!とプログラムを詰め込みました。

川遊びでは天然のウォータースライダーをきやつきやと楽しむ子、うきわでぶかぶか浮く子、他の利用者さんのわんちゃんと交流する子がいったり、BBQのときには食べている子の脇で草花や石を集めてお店屋さんが始まったりと、それぞれに楽しみ方を見つけて個性豊かに楽しんでいました。また、いつもなら残しがちなおさかなも自分たちで捕まえたニジマスはよほどおいしかったのか、骨だけ残してきれいに一人一匹全員がぺろりと平らげてしまったり、最初は怖いとしり込みしていた鍾乳洞たんけんも出てくるころには「もう一回行きた

い!」とみんなでアンコールしてきたり、職員の想像以上に、ワクワクドキドキの体験を時間いっぱい楽しんでいました。

児童指導員 足立理美

どうくつたんけんがいちばんたのしかったかな。せまいところがたのしかった。(ほかに)さかなつかみ、おいしいさかなをたべたこと、きんぷとかそういうところ(がたのしかった)。

年長 男子



コスモプロ

初日から天候には恵まれませんでした、「それはそれでコスモだな」と思いながら出発をしています。とても楽しみにしていた星空観察も、天候のせいで想像していたような夜空は見られず残念でありませんでしたが、東京に帰って来てからも星空を眺めて話をするようになった子がいいます。「あそこがいちばん光ってるね」「あれは何の形？」と夏の空を楽しんだので、冬の空でもどんな話ができるか楽しみです。Yちゃんの選んだかぼちゃはすごく甘くておいしかったね。Rくん宇宙への気持ちの向き方がすごい。Hくん本当はすごく楽しいって思っていること知ってるよ。Yちゃん手のひらアイト丁寧に作ってたね。Rくんかぶと虫捕まえたかったね。Sちゃん料理上手な奥さまみたいだったよ。Rくんすいかは好きになったかい？ Nちゃんカレー楽しそうに作ったらおいしくならないわけがないよね。Tくんキャンプファイヤーの火から目が離せなかったね。

事前取り組みから先行き不

安な出来事の続出でしたが、最終日に三年生の見せてくれた力！そのすごさに驚くばかりでした。その後に続いた一、二年生の言動も素晴らしい！小低会メンバーの成長とこれからの可能性を、職員全員が目の当たりにでき幸せです。

児童指導員 遠藤敦子

ぼくはコスモプロで、カレーを作りました。ぼくたちのはんは、かつとからあげのカレーでした。火おこしをやったとき、風を送ってけむりがもわもわと出てきて、もわもわしい熱さでした。たき火で木を入れるときに、かしゃかしゃと熱く感じました。プラネタリウムを見て、宇宙にいきたいと思いました。宇宙の中でいっぱい星を見たいです。しょう来はロケットを作ってみたいです。つぎは、みんなといっしょな行動をしたいです！

小学三年生男児



夏の思い出



行事報告 強歩

関東大震災から百年の節目を迎えた今年は、防災の要素を取り入れた強歩を実施しました。災害時に物資を届けるイメージで救援物資に見立てた水を、二葉学園から同法人の二葉むさしが丘学園まで歩いて届けました。水は二リットルペットボトルを、それぞれが持てる範囲でリュックに入れてもらいましたが、多い人で三本運んでいました。

歩行距離はこれまでの強歩と比べて短く設定し、片道十二キロメートル程度。それでも往路は思っていた以上に水が重く、帰路は、荷物は軽くなりましたが季節外れの夏日より気温が高く、心身共に疲労を感じさせるものでした。徐々に口数が少なり、また、立ち止まって座り込んでしまったたりする児童もいました。それでも、互いに励まし合いました。特に印象的だったのが、高校生が小学生の手を引いて歩いてくれたことです。一人ではなく、皆で協力して歩く、そんな一場面でした。最終的に誰一人リタイアすることなく完歩することができました。

途中、弱音を吐くこともありましたが、互いに助け合う中で、一步一步足を進めると同時に、一つひとつ成長していく様子が見られた、そんな強歩でした。

児童指導員 菅大輔

楽しいな雰囲気で歩ききることができました。歩き始めた時は閑散とした感じで、参加が初めての私はたどり着けるか不安だったけど、疲労感が募るにつれ話しながら歩いたり、休憩時間に遊んだりして楽しかったです。人数が多めに感じたのでその分賑やかでした。ゴール出来た時は充実感がぐんと上がって、ゴールテープを用意してくれたこともとても嬉しかったです。みんなが来年の強歩までげんきでいてくれたらいいな、と思います。

高校三年生女児



行事報告

地域バーベキュー

十月八日(日)にコロナ禍を経て四年ぶりに地域バーベキューを開催しました。以前と開催時期や方法を変更しましたが、九十名以上の方に参加して頂きました。当日は職員がお肉、海鮮、焼きそば作りや提供を行いました。お肉を焼いて、会場を盛り上げている職員の姿を見ながら、子ども達も沢山食べていました。地域の方々からも、「美味しいよ」と直接感想を頂き、何度もお替りをして下さる方もいました。他にも綿あめや子ども用ゲームコーナー、抽選会コーナーを設置。今年は地域の方向けに小倉園長とのジャンケン大会も開催しました。子ども達はゲームや綿あめを楽しみ、小倉園長とのジャンケン大会では景品がおよそ十kgだったので、大人が積極的に参加して大盛り上がり。子どもから大人まで楽しめる、地域バーベキューが開催出来たのではないかと思います。

日頃よりお世話になっている自治会の方には「来年も楽しみにしているよ」と声掛けを頂きました。そして子ども達が日頃お世話になっている

ボランティア、フレンドホーム、学校の先生等関係者の方々も沢山ご参加して下さい、いつもとは違う環境の中で子ども達を囲んで担当職員と懇談する良い機会にもなりました。また卒園生も遊びに来てくれており、懐かしい昔話や近況報告は、私たち職員にとって励みになる時間になりました。

地域バーベキューは、自治会との共催であり、近隣の学校からの机やイスの貸し出し、地域のお店からの抽選会景品や食材の提供といった、近隣住民の方々、参加して下さいの方々の協力あつての開催になっております。

皆様に日頃の感謝、無事に開催できたことへの感謝を申し上げます。また来年開催できよう頑張ります。

たまふおす 井原紗綾



ボランティア活動報告

地域に根差した生活を展開している中で、近隣やボランティアの方と一緒に成長を見守ってもらうことは、子どもの成長においては欠かせないものです。

学習ボランティアを中心に、多くのボランティアの方々に子ども達に関わっていただく中で、子ども達の豊かな経験の広がりを感じています。

個別ボランティアにおいては、子ども達のニーズに合わせた活動内容であったり、ボランティアの方の新しい視点の活動内容であったり、多様な関わりを持ってもらい、職員自身も子ども達への関わりのヒントをもらっています。

一回目のボランティア懇談会を無事に終え、新たなご意見をいただき、ボランティアの方たちのお力をかりて新たな活動へ広がりを持ちとうと模索中です。「あまり学校に行けていないなら、こんな取り組みをしてみてもどうか」や「勉強をずっとみているより、遊びや雑談の時間で充実させてみてからではどうか」など、具体的なご提案に対してい

つも一緒に考えさせていたでいています。

今年度は、生け花ボランティア活動をボランティアの先生方のご協力もあって新たにスタートし、子ども達は草花に触れた後、先生方と過ごす時間を毎回楽しみにしています。先生方とも関係性ができてきたところで、課外活動として神代寺植物公園へ遠足にいきました。普段の生活と少し離れて、生き生きとした子ども達の表情や、行動をみていると、職員として心から嬉しくなりました。

ボランティアの方たちからのご提案など、力が及ばず実践に生かすことができないこともあります。今後とも一緒に子ども達の成長を見守っていただくために、積極的に発信して繋がりを持ちたいと思っています。

家庭支援専門相談員

北脇 由佳



二葉学園委員会活動報告 ～権利擁護委員会～

二葉学園では、子どもの権利条約、児童福祉法、子ども基本法等の理念に則り、子どもの最善の利益に叶う養護・養育を目指すという目的を掲げています。

- ・「子どもの権利」が適切に守られるために、第三者委員や外部機関（東京都権利擁護担当など）とも連携して、二葉学園の運営を見守り、支援していく。

- ・入所児童および職員の「子どもの権利」への意識・知識を高めていく。

この2点を軸に、権利擁護委員会を立ち上げ、月1回の定例会議と必要に応じて活動を行い、子どもたちの権利が適切に護られているか、権利侵害が起こっていないか、そして万一起きた場合には、如何に早急な解決ができるか、という点から取り組みを行い、施設全体の動きへアプローチをしています。特に子どもたちからの苦情受付ではその聞き取りと解決を図っており、また第三者委員の先生方との会議を通じて、子どもたちの暮らしや職員の労働環境に関する指摘やご助言をいただいています。

子ども家庭庁の施策として、「こどもまんなか社会」を目指す中で、子どもたち自身のアドボケイト(意見表明)がより重要視されています。子どもたちの声を聞き漏らすことなく、より丁寧な支援に繋げて行けるよう、取り組んでまいります。

児童指導員 油木 鉄兵

二葉学園では、養護の目的を達成するためにご援助を頂いて、より子どもたちの成長をはかるための賛助会を構成して、養護の状況をご報告しながら仕事を進めております。

皆様のご協力とご紹介をお願いいたします。

年会費 一口 1000円

お申し込み先

東京都調布市上石原2-17-7

児童養護施設 二葉学園

TEL 042-482-2578

FAX 042-480-5200

郵便振替 00130-4-47665

毎年報告しています決
済報告に関しましては、
社会福祉法人 二葉
保育園のホームページを
ご覧ください。
<http://www.futabayuka.or.jp/>

賛助会員・御支援者

御芳名

(敬称略)

秋葉宏子 辻久恵 秋輪和幸 石森康雄 坂倉綾子 野地隆夫 新井美津子 岡本光一 岡本文子
 ばていすりー・ど・あん 仙川教会子どもの教会 日本鏡餅組合 子ども地球基金 (財)登戸学寮寮生一同
 志賀勝子 網代正孝 斉藤友子 多胡彬 大橋章人 大橋能里子 桐谷重毅 橋本知 福島穆
 高山直人 ちようふ子どもネット青少年ステーション 加幸男 大河原幸子 関沼幸通 (有)柴田商店 柴田明
 ヤング理髪店 日本未来支援機構 高橋清一 永幡紀明 上石原二丁目自治会さくら会 徳井美千代 宮田康成
 調布駅前パソコン教室 朝日管財(株) 多田京子 東京都荏弱共同組合 東中野教会 牧操子
 細川知子 小松幾世 有賀芳子 大新電気工業(株) 武藤修明 原田利裕 堀本縣治 田辺一男
 加藤実三 中山正雄 藤澤晴子 (株)ドリームホーム B.R.サーティーワンアイズ(株) 牧野信也 成田和子
 千賀ひろみ 舟久保由紀子 食肉生活衛生同業組合 坂本悠紀子 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 阿部陽子
 折茂伸満 フードバンク調布 大河内義貴 渡邊幸一郎 (有)ダスカジャパンクアウテモック 齋藤隆夫
 染地地域福祉センター 高浦勝寿 作左部麻希 上野まり子 西光庵 清永道也 清永春美
 府中市主任児童委員会一同 (株)プレナス (社)東京馬主協会 (有)布田屋 掛川亜季 調布市社会福祉協議会 園武友
 公益財団法人資生堂子ども財団 鈴木洋 藤田奈巳 那須史子 宮川千春 関根裕美 柳原園子 田中秋男
 長澤康浩 福田裕代 野田英明 徳富善子 特定非営利活動法人日本チャリティ活動支援協会 田中義男
 (株)NUK建設設計事務所 一般社団法人東京文具工業連盟 調布市遊技場組合 大島紀子 吉澤貞雄 吉澤治代
 アンダーツリー東京キコナ府中店 フィリップモリスジャパン(株) セカンドハーベスト・ジャパン 池田守彦
 中嶋勝夫 松浦幸子 NPO法人ちようふこどもネット 宇山みえ子 コストコホールセールジャパン多摩境倉庫店
 (株)京王閣 東京調布ライオンズクラブ 菊池邦夫 渡辺チイ 清水裕子 株式会社ガイア 武田康男
 角瀬敬子 島田圭子 小林明信 調布WAT 渡辺喜信 渡辺千重子 滝沢友紀 村岡弘 村岡えり子 村岡海斗
 渋谷利宏 荒井嘉江 足立書子 松本弘樹 ハンズオントウキョウ 調布・狛江地区更生保護女性会
 焼鳥とりふく糸川 (株)オリエントコーポレーション ワールドメイト 小林肇 関口隆雄 白百合女子大学
 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 中央共同募金会・アサヒ飲料(株) 日本再生(株)代表取締役鷺見健司 西村文子
 健全育成第三地区委員会有志一同 小倉勇 (株)日本M&Aセンター代表取締役社長三宅卓 柳俊一郎
 寺澤玲子 廣瀬剛 河内進一郎 榎本春久 フードフォーキッズプロジェクト 全国シヤンメリー協同組合 森本裕美
 塩野梨沙 株式会社日本出版社販売 松浦幸子 富士天然氷蔵元・不二 高田健吾 佐藤昭 調布市フードドライブ
 大塚商会(株) アメリカンスクールインジャパン NPO法人ブラネットカナル (株)サントリーホールディングス
 大島秀治 ボランティアグループ・すいとぴい 奥野宣子 中村敏枝 KKアータブレーション 高橋一弘 青松佐枝
 一般財団法人日本児童養護施設財団 ジエイ・ワーク(株) 調布パールフードドライブ 鈴木博人 荒井富子 高木久美
 大木尚美 上石原樹子 中富菜摘 駒沢女子短期大学 堀井一幸 (株)渋谷不動産エージェンツ 実光博幸 神原恵理香
 多摩ゴルフ会 匿名の方

皆様からのご支援・援助、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和五年十二月